

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4370300768
法人名	医療法人 社団 健成会
事業所名	グループホーム ふれあいの家 御薬園
訪問調査日	平成 20 年 3 月 22 日
評価確定日	平成 20 年 3 月 31 日
評価機関名	特定非営利活動法人NPOくまもと

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4370300768
法人名	医療法人 社団 健成会
事業所名	グループホームふれあいの家 御薬園
所在地	熊本県人吉市七地町495 (電話) 0966 - 22 - 5711

評価機関名	特定非営利活動法人NPOくまもと		
所在地	熊本県熊本市上通町3 - 19 - 402		
訪問調査日	平成 20年 3月 22日	評価確定日	平成 20年 3月 31日

【情報提供票より】(H20年 2月 29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 6月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	6人	常勤	6人, 非常勤 0人, 常勤換算 6

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての	階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	170 円	昼食 340 円
	夕食	340 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(2月 29日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	4名	要介護2	1名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 90歳	最低	86歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ひとよし内科 愛甲歯科クリニック
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

球磨川沿いの大きな施設敷地の一角にあり、市街地のビルを望みながら自然に囲まれた静かな環境にある。建物は和風ながら機能的な造りで、明るく清潔感がある。平均年齢90歳と高齢の入居者と若い職員との笑いが絶えない生活が垣間見られる。併設施設や医療機関の存在も大きく、連携体制も整っている。特に食事面では併設施設の栄養士によって管理されており、見た目や栄養面で行き届いたサービスが提供されている。外出の機会をより多く設けたり毎週のモニタリング実施などでは、管理者や職員の意欲がみられ、今後地域への貢献も期待できるホームである。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	運営推進会議開催は定期的な実施が困難のようであったが討議内容は充実しており、ホームの機能を啓発する機会として成果も上がっている。今後は定期的な開催や、行政からの参加要請が期待される。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で行ない、評価の意義についても理解している。評価後の検討や改善項目については運営推進会議にも諮られ、誠実に取り組みがされている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は6回開催されており、外部評価結果報告やホームの活動報告等を行っている。今後は討議内容の充実や計画的な開催に向けての取り組み、記録の整備が期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の面会や電話連絡時に、健康状態やホームでの様子を報告し、情報を共有することで意見や要望を出しやすくしている。今後は運営推進会議や家族同士の交流を活性化することで、より意見が出やすいような取り組みが期待される。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域行事への積極的な参加や、行きつけの理・美容院への外出・買い物等での地域の人々との日常的な交流に努めている。ホームの側から、積極的に地域との交流関係構築に努められることが望まれる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の変化を考慮しながら、ミーティングやスタッフ会議で理念を話し合い、必要に応じて作り変えている。		理念や基本方針は普遍的なものであり、入居者の変化に応じて理念から職員目標を設定するなどの検討が望まれます。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は掲示してミーティングや会議の際に確認しあい、常に意識して実践に取り組んでいる。家族へも面会時等に理念の説明をしている。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣に民家は少ないが散歩の際には声をかけるなどの付き合いがある。法人や町内会から地域行事の連絡があり、祭りや季節行事・関連施設のイベント等には積極的に参加している。また、近隣小学校の運動会や音楽会、中学校・高校のインターンシップの受け入れ等で地域の人との交流をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価・外部評価の意義は理解しており、評価結果については改善に向けた検討を行い取り組むようにしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回開催し、ホームの近況や行事活動報告・外部評価の結果や改善等の報告を行っている。会議内容は職員間で共有し、委員からの評価・助言・要望を伝達し、サービスの向上に役立てている。		有意義な運営推進会議のためには、ホーム内での会議計画や事前の議題検討が望まれます。

グループホーム ふれあいの家御薬園

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	推進会議の参加を依頼しているが行政の参加はない。情報公開はしており、相談等を行っている。		連携構築のためにも運営推進会議への行政参加が期待されます。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に健康状態や活動報告をしている。面会の少ない家族には電話報告や請求書と共に手紙や写真等を添えて送付している。金銭管理についても随時領収書と共に報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時、また意見箱を設置し意見や要望を聞くようにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職が必要最小限に抑えられるように努めている。入居者にはダメージが無いように勤務体制等で配慮をしている。		
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や法人内の研修の他、地域のグループホームブロック会の研修に参加している。毎週のミーティングの際には勉強会も開催している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回開催される地域ブロック会に出席し、研修や交流・情報交換を行っている。他のグループホームへの見学や訪問も行い、質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に家族と共に見学をしてもらい、十分な説明と話し合いをしようとしている。入居後も入居者の話には傾聴を特に心がけ、信頼関係構築に努めている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>食器洗いや洗濯物たたみ等の家事を一緒に行うように心がけ、梅酒・梅干作り等入居者が主になって行く機会を設けている。その中で、入居者との会話や入居者相互の関係が生まれている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日常の関わりや会話の中で、思いや意向の把握に努めている。1日に10分程は1対1で必ず話をする機会を意識的に設けている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者や家族の意向や、チェック表・支援記録等や職員からの情報を基に、計画作成担当者が作成している。介護計画は入居者や家族にも説明している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎週モニタリングを行い、3ヶ月に1回は介護計画の見直しもしている。また状態変化に応じて、その都度本人・家族・関係者と話し合い、介護計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じて、併設施設のデイケアサービス利用や通院など柔軟に支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医が同じであるため、健康状態の異常時にも相談できる関係構築が出来ている。毎週、訪問看護も受けている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療面での連携体制は、訪問看護や併設医療機関で対応されており、終末期の介護指針も作成されている。早い段階から家族やかかりつけ医とも話し合うようにしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に個人の人格を尊重し言葉かけや対応に配慮しており、職員間でも注意し合うようにしている。また、個人情報の保護の徹底も行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事・入浴などは、入居者のペースに合わせて、希望に沿ったケアを実践するよう努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(E)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や食材は併設施設と同じであるが、調理や後片付けはホームで職員と共に入居者が行っており、職員と一緒に食事も摂っている。誕生会やピクニックの弁当の食材の買い物に入居者と出かけたり、菜園の野菜も食材として利用している。		栄養士による管理されたメニューの他に、入居者の希望がより反映できる体制も望まれます。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、いつでも入浴支援を行う体制が整っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食器洗いや洗濯物干し・たたみ等の役割や、習字・華道・テレビ・園芸・パズルなどの楽しみの場も支援している。散歩や買い物・外出や歩行訓練・簡単なりハピリなども行って、気晴らしも支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物やドライブ・散歩には職員が声をかけて個別に外出している。全員で花見やピクニックに出かけることもある。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	身体拘束については研修会参加で認識しており、日中は職員の見守りだけで対応している。事故防止については対応方法のマニュアルを作成し、周知徹底を図っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、夜間想定も含め入居者も参加した非難訓練を実施している。マニュアルの設置や併設事業所合同の訓練や、緊急時の講習会や勉強会にも参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後の食事量や水分摂取量を記録している。水分はこまめに摂取してもらうよう配慮している。身体や嚥下状態に応じた食事形態を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングに季節感を持たせる配慮がある。和室や和室周りの独特のベンチは、好みの場所を選べる効果がある。換気や臭気対策にも徹底的に取り組まれている。大きな手作りの日めくりカレンダーは時の認知に役立っている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真・使用していた生活用品や家具を持ち込んでもらい、入居者が居心地よく過ごせるための支援をしている。各居室の壁にはハンガーが用意され、出かける際の服の選択に役立つよう配慮されている。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームふれあいの家 御薬園
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県 人吉市
記入者名 (管理者)	和田 亮祐
記入日	平成20年3月7日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ミーティングやスタッフ会議において、各スタッフ独自の理念を述べ合い、それをまとめ事業所独自の理念として作り上げている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を掲示板に掲示し、全てのスタッフが日常の勤務を通して常にそれを目のあたりにしている。又、ミーティングやスタッフ会議はもちろんのこと日常的においてもスタッフに対し確認するなどの取り組みも行なっている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族に対しては、掲示板に理念を掲示している。また、来園時などに話す時間を設けて理念の理解していただけるようにしている。地域に対しては、運営推進会議を通して行っているが十分とはいえない。	○	広報誌の作成を行い地域へのアピールを行って行きたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩の際には、地域の方に声をかけている。また、玄関周りには、花を植えて来園しやすいようにしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で行事があるときは法人から又は町内会より連絡が入るようになってきている。又、スタッフも率先して調べるようにし、お祭りや季節の行事、関連施設のイベント等には積極的に参加している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	高校生のインターシップや小学校・中学校の総合学習の受け入れを行っている。また、地域の方々の見学を受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティングやスタッフ会議にて自己評価及び外部評価によって出された評価について、しっかり話し合い来年度に活かすように取組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出た話し合いの記録をスタッフ会議で発表し、各代表者からの評価と助言、要望を確認し今後の課題の有無を検討している。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在のところ出来ていない。	○	運営推進会議にまずは出席していただき、市町村との連携を充実させていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会等に参加できていないのが現状である。	○	権利擁護の勉強会に出席できるようにしていきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の勉強会においてもテーマとなっていることと、理念にも示しており、虐待は防止できている。また、法人全体の勉強会で研修報告など取組んでいる。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約や解約の際は管理者が入居者や家族と面談を行い、それぞれの希望、不安や問題点を尋ね、十分検討し同意を得ている。又、入居後には家族が来訪した際には入居者の近況を報告し情報交換に努め、入居者や家族が話しかけやすい雰囲気を感じてもらえるよう心掛けている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情、相談窓口の設置を明記した文章を玄関横に掲示している。職員で速やかに対応策を検討する体制も整っている。又、これらの事項があれば運営推進会議においての報告はもちろんのこと、検討議題にしている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会に来られた際に、健康状態や活動等について話している。来園されない家族には、電話等で報告している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議の他、ご意見箱を設置している。意見があった際は、運営推進会議で議題として取り上げている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1度の職員会議、又、月1度の職員勉強会を利用し職員の様々な意見や提案を集約し、これらを反映するための努力をしている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者や御家族の状況の変化や要望に柔軟な対応をする為、管理者と職員の間では、常に状況や情報の交換を緻密に行い、随時勤務調整に反映させている。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動や離職を必要最小限に抑えられるための努力は行っているが、やむを得ず職員が異動や離職を伴う場合においては、これらが少しでもスムーズに利用者の皆さんに受け入れていただけるよう、職員全員で配慮に努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>「運営は人材の育成が要になる」との信念があり、独自で行う職員勉強会はもちろんのこと、様々な研修への受講を進めている。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>2ヶ月に1回の地域ブロック会に出席し交流・情報交換を行っている。また、管理者だけでなく職員も他施設を見学・訪問し質の向上に努めている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員相互の理解を深める為の催しは企画されているし、ストレス軽減に向けての話し合いを行う場も設けられている。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>各自が向上心を持って勤務できるよう、親睦を深める為の諸行事の開催や勤務実態や実績についても詳細に把握している。</p>	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>様々な相談から施設見学、又、入居をされてからも常に傾聴の雰囲気作りを心がけ、信頼を築く努力をしている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ご本人はもちろんのこと、御家族から多くの確かな情報を頂く為、相談から施設見学時、そして入居以降においても、随時機会を作っている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者個人についての情報をもとに一人ひとりに合った支援を極め対応に努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	あくまでも入居者優先を心がけ入居者のペースで生活できるようにしている。又、家族が来訪されたときに気軽に相談できるよう心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食器洗いや洗濯物たたみ等を一緒に行い、共に生活しているという事を実感して頂いている。その中で、入居者の方と職員との間に会話や笑顔が生まれている。	○	左記の内容を継続していくと共に、身体の自由の利かない入居者に対する活動を考えていく。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の方の小さな変化に気づき、状況を家族の方へ伝え解決方法を一緒に考えている。	○	グループホームでの誕生会やピクニックと一緒に参加して頂くよう配慮していく。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者の方のこれまでの生活歴や家族と、どのような関係を築いてきたかを理解するようにしている。自宅への一時帰宅があまり出来ていない。	○	お盆やお正月は、なるべく沢山の入居者の方に自宅にて過ごして頂けるように家族の方への説明を行っていく。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等により関係の継続は出来ているが自ら訪問する機会があまり出来ていない。場所に関してはドライブ等で外出する機会があればその場所へ寄ったり、通ってみたり、と行っている。	○	馴染みの方に対しては、面会や外出の機会を設けたり、葉書や電話などの通信手段を用いていく。また家族や本人にも定期的に話を聞き情報を把握していく。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	それぞれ仲の良い入居者や、よく会話をされる入居者が居る事を把握しており、一緒に行える活動(おやつ作り・洗濯物たたみ等)を提供している。	○	左記継続

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去されても、遊びに来られたりされ関係が継続している。また、こちらから遊びに行く機会もある。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の方と職員が個別で話しを聞く環境を整え、本人の希望や意向の把握に努めている。また、面会に来られた家族とも情報交換しながら検討している。	○	入居者の精神面などの状態変化に注意し、常時対応を考慮していくと共に、話しやすい雰囲気を中心掛ける。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族等から話を聞き情報を得たり、以前利用されていたサービスを提供する事業所との連絡を行なう等し把握に努めている。	○	左記継続
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	全入居者の心身の状態・性格等を把握し、それぞれの入居者に合ったケアを行えるように努めている。	○	居室に戻られた際の過ごし方にもう少し配慮出来るようにする。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向や希望を基に、関係者・職員が話し合い、本人本位の介護計画の作成に努めている。	○	本人の状態・意向を第一に置き、変化のあった際にもより良く生活出来るように努めていく。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に介護計画の見直しを行い、また食事形態・歩行能力など、心身の状態変化に応じて本人・家族、関係者とその都度話し合いを介し介護計画の検討・作成に努めている。	○	左記継続

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への記入を行うと共に、重要事項など申し送りノートを用いて、全職員が目を通すことで情報の共有・実践を行い、また介護計画の見直しに活かしている。		左記継続
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族からの意見を介護計画に取り入れ、その時々々の要望に応じ介護計画を作成し、柔軟な支援をするようにしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者の生活の安定や拡がりのために周辺地域の諸施設から協力を得ることが出来るよう、理解を広げる働きかけを行っている。(近所のスーパー、歯科、美容師、消防、警察署、交番、ボランティア)。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向(必要性)に応じて提携機関のデイケアサービス等を利用している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	管理者が地域ケア会議等に参加し、その会議や電話などで情報交換が行われている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	心身の変化や異常発生時に気軽に相談できる看護職員や医療関係者を確保している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	管理者と協力医療機関の医師や同一法人の医師との連携が取れている。必要に応じて相談し、助言を受けている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションより看護師が週一度来訪し、入居者の健康管理などを支援してもらっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療機関に情報を提供し、家族にも説明や相談をしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	随時、入居者の健康状態を把握し、早い段階から家族やかかりつけ医と話し合いをしている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	こまめに個人記録に記入することでスタッフ一同が入居者の「できる事、できない事」を見極めている。終末期介護の指針を作成しており、担当医、家族と相談しながら暮らしの支援をしていきたい。現在まで施設での看取りを希望する人はいなかった。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報提供を行い、環境の変化でダメージを受けないように配慮している。また、家族とも相談し時期等を考慮している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に入居者の気持ちを考えた言葉かけを行っている。また記録物等は第三者の目に触れないように心掛けている。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の状態に合わせて筆談やジェスチャーを取り入れて説明をしたりその都度工夫をしている。また話しやすい雰囲気作りを心がけている。	○ 左記継続
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴など入居者のペースに合わせて行う等、出来る限り入居者の希望に沿ったケアを行えるように努めている。	○ 自分の希望を上手く伝える事の出来ない入居者に対しても出来る限り本人の意向に沿ったケアを提供できるように努めていく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの理・美容室がある方の場合はその場所へ外出している。また、特に行きつけの場所がない方はグループホームへ美容師の方を呼んでいる。	○ なるべく理・美容室へ出かける機会を設け、外出自体も楽しんで頂けるようにする。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者それぞれの能力に応じて、食事の準備・後片付けのお手伝いをお願いし、食事がより楽しいものになるように努めている。	○ 庭でのバーベキューなど時季に応じて行っていきたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好を確認し、健康状態に注意しながら嗜好品の提供を行っている。	○ 家族が嗜好品を持って来られない方は、職員と買い物に出かけ、自ら嗜好品を選んで頂く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人・家族希望や必要に応じナプキンや尿取りパットを用いているが、声かけや誘導で排泄パターンを把握し、ナプキン類の使用や失禁などの軽減を図り、本人・家族等とも検討しながら、排泄支援に努めている。		左記継続
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人のより曜日・時間帯・当日の入浴の有無の希望を聞いた上で調整し、ゆっくり入浴して頂けるように努めている。		左記継続
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は本人希望や疲労感など状態に応じて臥床時間を設けている。夜間、希望者には湯たんぼの使用を行う等している。		左記継続
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者それぞれの好まれる作業や活動を把握し、状況に応じて声かけ等を行っている。また、月毎のカレンダーに行動表なども掲示し入居者にも分かり易く、参加しやすい環境を作っている。	○	居室へこもりがちな方へは、メンタル面も考慮しながら誘いかけを行っていく。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際には金銭の受け渡し、計算等の手伝いを行い、本人の希望や金銭管理能力を把握した上で対応している。	○	左記継続しながら、金銭トラブル防止・金銭管理の向上に努めていく。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物やドライブ・散歩等、本人の希望や声かけにて対応している。また、会話の中で戸外に出かけたいと訴えがないか等、早めに把握出来るように心掛けている。	○	左記継続
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	希望に応じてその都度ドライブ等実施しているが、家族と共に外出する機会には個人差がみられている。	○	家族へも声かけを行っていき協力を求めていく。また、個人差を出来るだけなくしていく為に、全体での定期的な外出を設けていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望に応じ対応出来ているが、遠慮されていたりする場合もあるので、その際には会話の中で本人の意思を確認していけるように努めている。	○	時季に応じて葉書等(代筆含む)出したり、いつ頃連絡が可能であるか等伝えていける環境を整える。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来園時には各部屋にて来園者・入居者が一緒になってお茶やお菓子等楽しみながら、ゆっくり過ごして頂けるように早めの対応を行っている。また、家族に対しては、本人の状態や近況の報告を常時行なっている。	○	左記継続
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対して職員も周知徹底しており、危険行為や徘徊等する方に関して、職員で対応方法を適時検討し、入居者本人の意図を考慮した上で声かけや見守り・散歩等気分転換など兼ね対応を行っている。	○	左記継続
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は常時開放しており、入居者へは見守り・所在の把握を行い、事故のないように努めている。	○	左記継続
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常に入居者を見守りやすい位置にあり、居室にこもっている方にも、ストレスを与えない程度に訪室したり環境を整えている。	○	左記継続
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬剤や洗剤等は入居者の目の届かない所へ保管。刃物等も使用後は元に戻すように徹底して行い、入居者個人でのハサミなどの持ち物についても、本人・家族と話し、保管場所を統一する事などを了承して頂いた上で常時管理している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会・話し合い等設け、個々の対応方法の統一を行うと共に、マニュアルの作成、常時全員が確認し周知徹底している。	○	左記継続

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し年1～2回は緊急時の講習を受けている。また、防火訓練等には、消防署協力・指導の基、入居者と一緒に定期的の実施している。	○	左記継続と合わせ、急変時等の対応方法を関連機関と共に検討していくように努める。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練を上手く出来るように、技術的、身体練習を継続的に行っています。地域の人達に連絡を取るときに決めておく連絡網があります。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	来園時などに出来る限り時間を設け、入居者の近況報告・疾病に合わせ今後のリスク・そのリスクに対する職員の対応方法、バックアップ機関との連携など説明し、家族の意向を確認し意見交換を行なっている。	○	遠方におられたり、状況に応じ来園が困難な家族に対しても定期的に通信手段を用いたりしていくなど工夫を行っていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の状態観察・体温測定・定期的なバイタルチェックを行い、カルテへの記載・申し送りノートの活用・職員同士の直接的な申し送りをし細部に於けるまで全職員が把握し、小さな状態変化にも目を向け早期発見・予防に努めている。また、訪問看護による定期的な健康チェックの支援、随時情報交換を行っている。	○	左記継続
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳を作成し、薬の種類・用量・副作用について把握できるようにしている。また、症状の変化があった際、かかりつけの医者に的確に報告できるよう工夫している。服用の際は、出来るだけ自力にさせていただき、誤薬・飲み残しのないよう見守りを徹底している。	○	左記継続。新人職員に対しては勉強会等用いてしっかり説明し、他職員に対しても再認識のため注意を促していく必要がある。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事以外に水分補給の時間を設けている。また、午前・午後の二回に分け短時間でも身体を動かしていただくよう声かけ等おこなっている。排便3日ない場合は本人にあった下剤を服用していただく。	○	左記継続
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	うがい時にはイソジンガーゲルを使用し、義歯洗浄時には専用の物で消毒・洗浄を行っている。なるべく自分でしてもらい必要に応じて手直しを行う。	○	左記継続

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の管理の下、指示に従いバランスの摂れた食事を提供している。毎食後には水分・食事摂取量をチェックし摂取量の少ない方に対しては声かけ・説明を行っている。	○	左記継続。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成している。それに基づき、室内の消毒など感染症に対する予防を行っている。	○	左記継続。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所は毎食後消毒液を用いて掃除を行い、週1回冷蔵庫の整理や食器の消毒を行い、食中毒の予防・食材の管理に努めている。	○	左記継続
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の出入り口には看板を設置し分かり易く表示してある。また、玄関には季節に応じた花などで明るくしている。	○	左記継続。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や照明は利用者に声かけし、調整している。部屋でテレビ見られる際は周囲に不快感を与えないようイヤホン用いていたり、その方の聴力に応じたトーンで対応している。	○	左記継続
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室や居間があり利用者が心地よく過ごせるような空間を設置している。	○	左記継続。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使われていた物をそのまま活用していただき、本人が居心地良く過ごせるような環境づくりを行っている。	○	左記継続
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	食堂は常に換気扇にて換気行っており、時間毎に窓を開け空気の入替え行っている。居室に関しては、起床時に換気開始し休まれてる際は時間毎に声かけし換気実施するなど、徹底して実施している。	○	左記継続。利用者が自分で換気を心掛けてもらうように努める。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や廊下には手すりが設置してあり、浴室には滑り止めを用いたり安全に生活してもらうよう工夫している。	○	左記継続
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの能力を個人のペースで活用し、安心して生活できるよう工夫している。	○	左記継続
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑・花壇等用いて野菜、花などを育て、利用者と一緒に草むしりや収穫等行い活動を行っている。	○	水やり・収穫・草むしりを利用者自ら興味を持ち、積極的に活動していただけるように取組んでいきたい。

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・年数回のピクニックを実施している。その際は、職員も一緒に楽しんでいる。
- ・訪問看護ステーションと協力し、入居者の方の健康管理に努めている。必要に応じて、医師の往診等定期的に相談し、助言を受けている。